

人に語れるようになる“ITのツボ”（第9回）

高速ネットワーク活用でスッキリ業務改善

2023.06.23



企業におけるICTの利用形態としてクラウドが広がりつつある。多くのプラットフォームベンダーから多種多様なクラウド環境が提供され、アプリケーションベンダーからも数多くのクラウドサービスが提供されている。こうしたクラウド環境やクラウドサービスを活用して業務効率を向上させるには、どのようなところがポイントになるのだろうか。今回は、ユーザーである従業員の立場に立って考えてみたい。

どこからでもファイルにアクセスできるクラウドストレージが働き方を変える

今や多くの企業でクラウドの活用が進んでいる。メールシステムを始め、インターネット会議サービス、チャットサービス、さらには財務会計や人事管理など業務システムもクラウドサービスとして提供されている。

当初、クラウドのメリットとして挙げられていたのが、初期投資が抑えられることや従量制課金などコスト面だった。しかし、現在では働き方改革の追い風もあって、ICTの活用スタイルとしてどこからでも利用できる点も注目されている。その中で注目したいのが、クラウドストレージというサービスだ。例えば、それらを活用して企画書や営業資料、業務日報、各種申請書などのあらゆるファイルをクラウドストレージにアップしておくことで、インターネット環境さえあれば、自宅でもオフィスと同じように業務が遂行できるようになる。

しかもサービスによっては、フォルダーごとにアクセス権限が設定できたり、二段階認証やVPN機能が提供されていたりする。データ保管についても国内の複数のデータセンターで同時に複製されるものもあり、セキュリティ面やBCP面でも自社のサーバーのストレージより安心して利用できるケースも多い。

さらに、インターネットの通信環境が高速であれば、利用するストレスも少なくなる。安心を担保しながら、いつでもどこからでも必要なデータに素早くアクセスできるクラウドストレージを導入することは、従業員に働きやすさを提供する切り札と言えるだろう。

ビジネスWi-Fiの導入との合わせ技で社内からもストレスなく利用できる… 続きを読む